

5 東名・新東名 I C、スマートインター等を活用したネットワーク化と区の活性化策について

斉藤清明の質問内容	主な答弁内容
<p>(1) 来年のゴールデンウィーク前の開通を目指す新東名高速道路、また一部の三遠南信自動車道が本年度中に開通し、浜松市内には東名と合わせ I C が 6 カ所、S A 2 カ所、P A 1 カ所となり、さらに「浜松サービスエリア」のスマートインターも実現する。</p> <p>そこで、さらに三方原 P A にもスマートインターが設置できないか伺う。</p> <p>あわせて、企業誘致・観光産業など活性化策のため、I C・スマートインターのネットワークをハード・ソフト含めて構築してはと考えるがどうか伺う。</p> <p>(2) このように恵まれた道路交通網と、高い標高、かたい地盤である三方原台地を、日本一防災に強い地域として特区などを活用して、工場用地の確保と工場誘致を積極的に進めてはと考えるがどうか伺う。</p> <p>(3) 北区は東名・新東名・三遠南信自動車道に囲まれ、高速道路網は群を抜いて整備されることとなる。</p> <p>そこで、浜名湖 S A をただ単に休憩と風光明媚な風景の観賞に終わらせるのはまことにもったいない話であり、浜名湖 S A から観光船で舘山寺温泉や弁天島などを遊覧できるようにし、浜名湖を宿泊とあわせた観光スポットとして整備して、民間の力を引き出していけるような計画が実現</p>	<p>【市長】</p> <p>三方原パーキングエリアへのスマートインターチェンジの設置については、今後、アクセス道路の整備やパーキングエリアの拡張等の課題を整理して、関係機関との協議会設置を目指し、調査に取り組んでいく。ネットワーク構築については、アクセス道路の整備など、高速道路を活用した交通利便性を高めるとともに、各インターチェンジから観光地や文化施設へのわかりやすい案内表示の設置を検討していく。</p> <p>【市長】</p> <p>環境エネルギーなどの成長分野における全国の企業を対象とした立地動向調査も予定しており、こうした機会を活用して、本地域の優れた立地性を積極的に情報発信し、企業誘致に繋げていきたい。</p> <p>【市長】</p> <p>民間で組織する「浜名湖地域舟運都市構想研究会」が様々な検討を重ねている。将来、同研究会の構想が具現化した暁には、本市としても、浜名湖観光圏の事業計画に盛り込むなど、連携を図りながら、更なる誘客に繋げていきたい。</p>

できないかどうか伺う。

(4) 天竜区は若年層を中心に人口が減少し、深刻な高齢化と過疎化が進行し、さまざまな産業による活性化策が急務となっている。産業として森林・林業の活用と観光施策が考えられ、林業では木材の認証事業などが進められている。

ア そこで観光産業について、合併のメリットを十分生かした天竜区内の観光地のネットワーク化のほか、山城のろしりレーなど全国に発信できるシンボリックな観光を構築するなどして、交流人口増加策を講じてはと考えるがどうか伺う。

イ また、新東名開通後の国道152号の飛龍大橋から船明までの整備計画と、阿蔵山の未整備である区画整理の活用策について伺う。

(5) 現在、各区役所に年間、地域力向上事業に約1億4000万円、区まちづくり事業に約1億7000万円、区大規模事業に約1700万円がそれぞれ支出されているが、このうち実質的に区の裁量で支出できるのはほんのわずかである。

区役所は最前線で区民の実情を把握し、さまざまなアイデアを駆使しているが、企画・財政の裁量が少ないため、職員の能力が十分発揮できていない。そこで、区における企画・財政の裁量をふやすべきと考えるがどうか伺う。

【市長】

現在、「北遠の古城を訪ねる」モニターツアーなどの事業を実施している、また、サイクルツーリズムを毎年開催している。加えて、天竜川水系には、豊富なアウトドアコンテンツがあり、これらを文化的、歴史的資源と組合せて、全国に発信していく。

飛龍大橋から船明までの整備については、現在工事を進めている浜北工区の完了後に事業着手できるよう、関係機関と調整協議を行っている。阿蔵山用地については、優れた交通アクセスや堅固な地盤などの立地条件を活かし、新たな工場用地として最大元活用を図っていきたい。

【市長】

現在、予算上、区の裁量により企画実施できるものとしては、地域力向上事業と区まちづくり事業がある。さらに本庁予算の中にも、区の企画により実施している事業も数多い。区民の実態や実情に応える事業を執行していくことは重要であり、今後もさらに、区の企画力を活かすよう配慮をしていく。